

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1271400135
法人名	医療法人社団 東方会
事業所名	グループホーム あんじん
所在地	千葉県香取市佐原イ1681 (電話) 0478-55-0094
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉縣市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成20年4月4日

【情報提供票より】(平成20年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成9年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	7 人	常勤	5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 5.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建て	1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり		2,000 円		

(4) 利用者の概要(3月15日現在)

利用者人数	6 名	男性	0 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	0 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 92.7 歳	最低	82 歳	最高	103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石井内科病院、むらまつ歯科、千葉県立佐原病院
---------	------------------------

株式会社 日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の一角に、広い駐車場を備えた「グループホーム あんじん」がある。隣はデイサービス、通りの向い側は協力病院という恵まれた立地であり、それぞれとの連携体制も万全である。施設内はバリアフリーで、玄関や廊下は吹き抜けとなっており、天窓から陽が射し込みとても明るい。玄関前に設置した椅子では、あまり出歩けない入居者も毎日日向ぼっこを楽しんでいる。施設では、猫を飼っており、入居者の心を和ませている。職員は「家族を入居させたい施設」「将来自分が入居したい施設」を常に考え、アットホームな雰囲気作りと、一人ひとりに合わせた適切な支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価における改善点は運営推進会議やミーティングにて話し合わせ、適切な改善がなされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は管理者が、職員の意見を聞きながら作成している。外部評価の意義については職員全員が理解している。改善すべき点は、職員ミーティングで検討し速やかに改善を行い、評価を活かしたサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	行政、民生委員、町内区長、地域住民、家族代表、協力病院長、職員代表を構成員として、3~4ヶ月に一回運営推進会議を開催している。会議にて活動状況等の報告や意見交換等を行い、入居者家族も含めた交流を図り、サービスの質の向上と地域の理解促進に努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時に直接意見や要望等を確認していると共に、家族会や運営推進会議等の機会にも確認を行っている。現在まで苦情は挙がっていないが、要望においては、職員間で話し合い、適切な対応に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物に出かけた時に近隣の方々と挨拶を交わす関係が築かれており、ご好意でおすそ分けを頂く事もある。自治会に加入しており、回覧板の回覧や廃品回収への参加を行っている。地域の祭りへの参加や幼稚園の訪問等でも交流を図っている。また、市からの要請で毎年介護教室も実施しており地域貢献に努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「愛」「尊重」を主眼とした独自の理念をつくりあげ、職員全員が命の尊さを胸に、理念に基づいたサービスの提供に努めている。		日頃から地域との交流を図っているが、独自の理念や方針に地域密着型サービスとしての役割を目指した内容を付加し、地域との関係性のより強化を目指して頂くことを期待します。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所内に理念を掲示すると共に、ミーティングで確認を行い職員全員で理念を共有している。職員は常に理念を意識しながら、入居者が安心できる家庭的な温かい生活を目指し支援を行っている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物に出かけた時に近隣の方々と挨拶を交わす関係が築かれており、ご好意でおすそ分けを頂く事もある。自治会に加入しており、回覧板の回覧や廃品回収への参加を行っている。地域の祭りへの参加や幼稚園の訪問等でも交流を図っている。また、市からの要請で毎年介護教室も実施しており地域貢献に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者が、職員の意見を聞きながら作成している。外部評価の意義については職員全員が理解している。改善すべき点は、職員ミーティングで検討し速やかに改善を行い、評価を活かしたサービスの向上に取り組んでいる。		
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、民生委員、町内区長、地域住民、家族代表、協力病院長、職員代表を構成員として、3～4ヶ月に一回運営推進会議を開催している。会議にて活動状況等の報告や意見交換等を行い、入居者家族も含めた交流を図り、サービスの質の向上と地域の理解促進に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員とは、香取市グループホーム連絡会にて懇談会を行い情報交換を行っている。その他にも、施設運営全般に関する質問や相談を随時市職員へ行い、問題の早期解決を図っている。また、市の要請により年一回の介護教室も実施している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、入居者の生活状況や金銭管理等の報告を行っている。また、生活状況に変化のあった場合には随時電話にて連絡を行っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に直接意見や要望等を確認していると共に、家族会や運営推進会議等の機会にも確認を行っている。現在まで苦情は挙がっていないが、要望においては、職員間で話し合い、適切な対応に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在のところ職員の退職や異動はなく、人材は安定している。入職時には、慣れた職員と組んで業務にあたり、入居者と馴染みの関係を築けるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修に参加し、研修後は報告会や資料の閲覧等で情報の共有を図っている。また、内部研修として関連施設との合同勉強会を月一回実施しており、職員の質の向上に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会で、交流や情報交換を密に行っている。また、研修会や他施設の見学会等も実施し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	随時見学を実施していると共に、希望者には体験入居を実施し、施設の雰囲気を理解した上で入居を決めている。入居後においては、職員が接する機会を多く持って声かけを行うことで、できるだけ早く環境に馴染み、安心して生活できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の能力や希望に応じて家事等の生活活動に協力してもらっている。職員は入居者の気持ちを尊重しながら、共同生活を送っている。職員は入居者の人生経験、豊富な知識や考え方から学ぶ事も多く、お互いに支えあう関係を築いている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に家族から、本人の意向や生活状況等を確認している。また、職員の日々の気付きや情報交換等で、本人の意向の把握に努め、意向に沿った支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員全員でセンター方式のアセスメントシートを作成していると共に、職員全員がミーティングにて意見を出し合い、計画作成担当者が介護計画の作成を行っている。作成後は、家族会にて介護計画の内容の確認を行い、家族や本人の意向を反映させた介護計画作成に取り組んでいる。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3～6ヶ月に1回評価を行い、計画の見直しを行っている。また、入居者の状況に変化があった場合や必要と判断された場合は、その都度見直しが行われている。職員全員がミーティングにて意見を出し合い、計画作成担当者が介護計画の作成を行っており、家族の要望を考慮して、適切な支援ができるようにしている。作成後は、家族会にて介護計画の内容の確認を行い、家族や本人の意向を反映させた介護計画作成に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者が入院した時には医師との情報交換を行い早期退院に向けた支援を行っている。隣接のデイサービスと連携を図り、レクリエーションに参加する等している。また、機械浴槽を利用し、身体状況に応じた入浴支援も行っている。その他にも出張利美容や買い物、通院支援等入居者の要望に応じて柔軟に対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、希望のかかりつけ医への受診支援も行っている。また、管理者が看護師であり、状況に応じた対応がなされている。必要があれば随時、医師への相談や往診にて適切な医療支援が行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期においては、契約書に施設の方針をうたい、本人及び家族の了承を得ていると共に、家族会等を通じて話し合い、意向を確認している。重度化した場合には、管理者である看護師が医師と連携を取りながら、施設として出来る限りの支援を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の書類等については、所定の場所に保管し個人情報の保護を図っている。日常的にも入居者のプライバシーに配慮し、申し送りの方法や声掛けに気を配り、相互の信頼関係を大切にしている。また、直接部屋が見えないようにパーテーション等を利用し、プライバシー保護に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課の取り決めは無く、一人ひとりのペースを大切にし入居者の希望にそった支援を行っている。希望を言い出せない入居者に対しては、さりげない声掛けや提案を行い、希望を把握するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や能力に応じて食事の準備から片付けまで共同で行っている。入居者と職員が同じテーブルを囲み明るく楽しい雰囲気作りに努めている。入居者と一緒に食材の買い物をしたり、近隣住民からの農作物の差し入れ等により季節を感じる食事の提供を行っている。また、定期的な外食会を企画・実施し入居者に食の楽しみを支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は広く暖房も完備されている。入浴は毎日実施されており、本人の希望に応じて回数や時間等柔軟に対応している。また、身体状況に応じてデイサービスの機械浴槽を利用し、入居者の清潔を保持している。入浴拒否については、声掛けの工夫や時間の変更等で、無理強いせず本人のタイミングに合わせた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力や希望に応じて、家事等の生活活動を共同で行っている。デイサービスのレクリエーションにも参加し、楽しみながら外部との交流を図っている。また、施設ではペットも飼われており、動物とのふれあいが癒しに繋がっている。季節に合わせた行事や誕生日会を企画・実施し、入居者の楽しみを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、散歩や買い物を日々実施している。また、定期的にお花見・観劇等の外出会や食事会も行われている。年1回「グループホームじゅらく」と合同で2泊3日の旅行も実施されており、入居者と職員が楽しみを共有し絆を深める大切な機会となっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、日中は鍵を掛けずに入居者の自由な生活を支援している。入居者が外に出た時は、無理に引き止める事はせず、見守りや言葉かけにより柔軟に対応している。居室の鍵は設置されていないが、職員は入居者のプライバシーに配慮している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画や緊急時マニュアルを作成している。また、運営推進会議の際に、消防関係者、地域住民、入居者、家族にて消防・防災訓練を定期的実施し緊急時・災害時における対策を講じている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の嗜好や能力に合わせた適切な食事提供がなされていると共に、食事や水分の摂取状況を記録している。摂取量が少ない場合は、間食や摂取しやすいもので補い、必要な栄養の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内はバリアフリーで、玄関・浴室・トイレ等ゆったりとしたスペースが確保されている。また、玄関や廊下は吹き抜けとなっており天窓からの採光でとても明るく開放的な作りとなっている。入居者や家族の作品、行事の写真が掲示されていると共に、ソファやマッサージ機等も設置され居心地よく過ごせるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望により、馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるよう配慮している。全居室に洗面台とトイレが設置されており、入居者のプライバシーを保護している。エアコンが設置されており、適切な空調管理がなされていると共に、能力に応じナースコールが設置され安全面にも配慮されている。		